

Ⅲ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学通信教育部の「卒業資格＝学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」は下記のとおりです。卒業時に下記のような力が身につけているように在学中の学修を積み重ねてください。

総合福祉学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学士としての「質保証」のため「単位の厳格化」と「高い公共性と倫理性」をポリシーにしています。

学士力としては、「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」、「総合的な学習経験と創造的思考力」を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

社会福祉学科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会福祉学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(1)知識・理解

1. 基礎的知識：幅広い視野と豊かな人間性に加え、社会福祉の意義と機能を理解できる。
2. 専門的知識：人と社会環境の視点から、現代の社会生活に関わる諸問題が理解できる。
3. 応用的知識：理論と実践の融合的な学びを通じて、主体的に問題を解決できる。

(2)汎用的技能

4. コミュニケーション力：多様な価値観を理解し、自己とは異なる意見や考え方をもつ様々な人々とコミュニケーションをとる（相互理解をはかる）ことができる。
5. レポート作成力：課題の趣旨を理解した後、必要な情報（資料）を収集整理し、図表を活用しながら論理的に自分の考えを相手（読者）にわかりやすく伝えることができる。
6. 情報コミュニケーション技術（ICT）活用力：ICTを用いて情報収集・分析・プレゼンテーションを行うことができる。
7. 論理的思考力：人間社会における複雑な生活問題に対して、根拠から結論を導き、簡単にわかり易く構造化しながら表現できる。
8. 問題解決力：人間社会における様々な生活問題を明確にすると共に、問題解決方法について多角的な視点から情報の収集・分析・整理を行い、解決・調整できる。

(3)態度・志向性

9. 自己管理力：自らを律して、人間の尊厳と基本的人権を尊重する価値に基づいて行動できる。
10. 協調性・主体性：他者に配慮しながら、目標と問題を共有し、協調・協同して行動できる。
11. 倫理観：自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できる。
12. 市民としての社会的責任：人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に社会に関与できる。

(4)統合的な学習経験と創造的思考力

13. 創造的思考力：社会福祉の学びを統合的に活用し、自ら課題を設定し、理論と実践の融合を通して独自の解決法・解決案を導くことができる。

福祉心理学科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

(ア) 学生が身に付けるべき資質・能力の目標

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

1. 総合的な人間理解力

- (1) 人の心には、人々に共通する心の特徴（一般的原理や法則）と、人それぞれの心の特徴（個人差や多様性）があることを理解できる
- (2) 人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わることを理解できる
- (3) 生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる

2. 根拠に基づく情報発信力

- (1) 心理学の方法（文献検討、観察、実験、調査、面接等）を用いて、客観的なデータを集めることができる
- (2) 心理学の方法で得たデータを、図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる

3. 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力

- (1) 生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題に気づくことができる
- (2) さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、他者の気持ちや意見を考慮し、予防策や解決策を見出すことができる

4. 共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力

- (1) 他者の気持ちや意見を共感的に理解し、対話のなかで理解を深めることができる
- (2) 他者の気持ちや意見を尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる

5. 自己理解に基づくセルフコントロール力

- (1) 自分の気持ち、考え方、行動とそれらの特徴に気づくことができる
- (2) 怒りや不安等の自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる
- (3) 自分の成長につながる目標を立て、やる気（モチベーション）を高めることができる

6. 集団理解に基づく対人調整力

- (1) 集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる
- (2) 集団で情報を共有し、メンバーのやる気（モチベーション）に気を配り、自由に意見を出してもらうことができる
- (3) メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる

7. 心理学の学びを活かした社会貢献力

- (1) これまでの学びを統合して、人々の幸せや福祉に貢献することができる
- (2) 個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者と

ともに課題の解決に取り組むことができる

(イ) 学位授与の要件

福祉心理学科の教育目標を理解し、124単位の単位取得と要件、求められるGPA^{*1}を満たした上で、心理学の知識と技能を修得し、上記の「心理実践力」について実践を通して理解を深めた人物に学位を授与します。

*1 GPA：p. 261～262参照

IV GPAについて

通信教育部では、2014年度入学者から国際的な成績評価基準であるGPA制度を導入しています。

1 GPAとは

GPA (Grade Point Average) は世界的に用いられている成績評価です。

グレートポイント (GP) は、100～90点を4.0、89～80点を3.0、79～70点を2.0、69～60点を1.0、59点以下を0として換算し、GPAの計算式は下記のとおりです。

$$\text{GPA} = \frac{\text{「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1 + \text{「不可」の単位数} \times 0}{\text{履修登録した科目の単位数合計 (「不可」「履修放棄」を含む)}}$$

小数点以下第2位まで求めます (小数点以下第三位を四捨五入)。

表1 評定、点数、評価基準、GPの関係

評定	点数 (100点満点)	評価基準			GP (科目の評点)
		到達目標	成績	判定	
優(秀)	90点～100点	ほぼ完全に達成	きわめて優秀	合格	4
優	80点～89点	十分に達成	優秀		3
良	79点～70点	概ね達成	良好		2
可	69点～60点	最低限達成	最低の合格可		1
不可	59点以下	達成していない	合格不可	不合格	0

※なお、100点満点の点数は学内計算用であり、学生に開示するものとしては数値を算出していません。